

人間は、理由や原因を探さずにいられない

夏の休暇が終わりました。

山高見学会が中止になり、課題考査が延期になり、全統模試が自宅受験になり、銀鐘祭が中止になり、そして分散登校での授業開始。

なかなかたいへんな秋のスタートですが、みんな元気ですか？

というか、元気であってください。たとえば**今が五十年に一度の深刻な危機的状況だったとしても、危機「を意識する」ことと危機「に絶望する」ことは決定的に違います**。絶望した人はあきらめて受け入れるしかない。でも、危機を意識するのは、何より戦い続けるためです。

たとえば夏の五輪。開催の是非についてはともかく、コロナ禍がアスリートの人たちのあり方にも結果にも大きな影響を与えていたのは確かでした。そこには厳しい状況すらポジティブに捉えようとした人がいて、葛藤を抱えながらもたくさんの人たちに支えられ、何とか前を向いて戦ってきた人がいて、1年延期の時点で心が折れてしまった人がいました。等しく降りかかってくる災いでも、その受け止め方は千差万別、災いそのものが人によって色を変え、その色によって人も変わっていきます。人類は、私たちは、政治のあり方から個々の心のあり方まで、今コロナに試されると本当に思います。

何かが起こるたび、人間は理由や原因を探さずにいられない。その通りだと思います。そして都合のいい理由があれば、誰もがこぞってそこに責任を押しつける。たぶんその通りなのでしょう。

でも。ささやかな提案です。

3か月後、半年後、1年後に何か面白くないことが起こったとき、その理由や原因をコロナに求めるのはもうやめませんか。コロナが等しく課された神様のハードルなら、そのハードルに屈するのではなくて、うまく超えていくことを考えたい。たしかな未来はそこからしか始まらないと思います。

というわけで、今日はみんなでコロナを超えていく話です。

1年進路ニュース第2号で、最初の夏を迎える前に、高校生の「身体」を意識してみてください、と書きました。6月中旬頃の話です。あれから夏の休暇を挟んで2か月半、大学をめざす高校生の身体は手に入れられましたか？ 定期考査とベネッセ模試が終わっても、夏の前期課外が終わっても、自分の生活サイクル＝学習習慣を自然に維持することができましたか？

最初は苦しくても、意識的に毎日3時間の学習を続けてくれた人は、**今は脳がその負荷を新しい環境／習慣として受け入れて、毎日体力トレーニングや基礎練習ができる人のように、ずいぶん楽になっているはず**です。むしろ何もしないでボーとしていると、つい気になって英語のテキストをばらばらめくっているかもしれない。ふと気がついたら夢中で数学の難問をずっと考え続けていて、

あれ、私はいったい何者なんだ、と思ったりしているかもしれない。

習慣／身体化、というのはそういうものです。無理やりではなく、自然にそれができるようになる。そして、それができる身体になることが本当に志望大学へのスタートで、一定時間普通に学習に集中できる身体にならない限り、効果的な時間の使い方も、目標に合わせた学習内容の精選も、短期長期の復習計画も、実は何一つ始まらない。くどいかもしれないけれど、今きちんと学習習慣を身につけることの大切さに気づいてください。

コロナ禍で遅れそうですが、いずれ第2回の学習量調査が行われます。

4月の平日学習量が1.5時間未満だった47人の人たち、休日1.5時間未満だった25人の人たちが、自分と戦い始めてくれていたらいいなと思います。1年の間に意識して2.5時間以上の学習を1か月続けられたら、生活も成績も確実に変わります。だって1.5時間未満は、塾へ行く以外ほとんど何もしていない時間だけれど、2.5時間以上は復習や練習を含んでいる時間だから、**それだけでわからなかったことの中に「できる」ことが生まれてくる**。復習をし、練習をすればできるということがわかれば、明日の復習もできるようになる。

下は7月ベネッセの成績です（『1年7月ベネッセ総合学力テスト成績概況』は省略）。もし復習して身につけていたらできた所が何点分あった？ 時間ならたっぷりあります。コロナだったからできなかったではなくて、みんなで超えていこう。期待しています。